

Special Gravure

山口乃々華

市役所さんぽ

ちょこっと

春日部市役所の新庁舎に俳優・山口乃々華さんが登場！
市役所を巡りつつ、小さいころの貴重な春日部メモリーを紹介

新しくなった
市役所での
～んびり

2024年にはグッドデザイン賞を受賞した新庁舎。見どころもたっぷり

BLOOMY'S

撮影場所＝春日部市役所、CAFE BLOOMY'S KASUKABE／撮影＝古川義高／スタイリスト＝栗野多美子／ヘアメーク＝永井友規
衣装協力＝muller of yoshiokubo 03・3794・4037、RIM.ARK（バロックジャパンリミテッド）03・6730・9191、ALM. 03・6434・6434
carat a 03・6434・7945 carat-a.jp

今の自分になるきっかけと
なったダンスとの出会い

「E-girls」のパフォーマーとして活躍していた山口乃々華さん。生まれも育ちも春日部市という乃々華さんに、2024年1月に開庁した市役所を散歩しながら、春日部で過ごした日々の思い出を伺った。

「学校も習い事も遊び場も青春もすべて春日部にありますね。小さいころは習い事をたくさんしていて、習字やピアノ、なかでもバレエは姉が先に始めていたのをきっかけに3歳から習っていました。小学校4～6年の3年間はバトンクラブに入って自分で振り付けを考えたり、技を披露したりとハマっていました」

小学校5年の時に、地元にあったダンススクール（現在のREP Performance Stage）でレッスンを受け始めたそう。

「バレエ時代から一緒に通っていた友達がいって、年1回開催される発表会では、先生にメークしてもらってキラキラの衣装を着て一緒に踊ることが楽しかったです。そこでヒップホップに出会い、プロになるきっかけをつかみました。夢中になってレッスンを受ける中で、先生からLDHが主催するEXPG（ダンススクール）のオーディションを受けることをすすめられて。そ

20年前の
私です



よく食べて、よく遊ぶ活発な子だったという山口さんの幼少期

春日部の学生たちとの
ジョイントも実現したい

今後は、かすかべ親善大使としてやりたいこともたくさんあるとか。

「これまで大使のお仕事をする中で、知らなかった春日部のいろいろなことが発見できたので、そんな新しい情報発信ができればいいなと思っています。また春日部の中高生の皆さんたちと一緒にものづくりや作品づくりをするような機会を作りたいなと。今は、そんな野望を抱いているところです（笑）」

習い事やダンスの思い出など
青春まるごとが春日部に！

ほっこりお花スポット発見！

庁舎の2階には、季節の花々が咲く花壇とベンチがある

ジュリンもおいしい？

Profile

1998年3月8日生まれ。春日部市の上沖小学校、大沼中学校を卒業。2012年「E-girls」のメンバーとして、CDメジャーデビュー。2020年末まで「E-girls」としての活動を経て2021年より女優として活動を開始。テレビドラマ、映画にも多数出演し、ミュージカルなどの舞台女優としても活躍の幅を広げている。2022年よりかすかべ親善大使に。



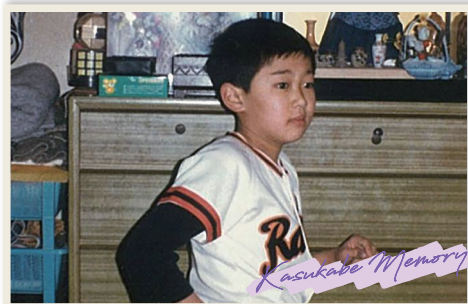
Profile

春日部市出身で、春日部市谷原中学校を卒業。1995年、お笑いコンビ「ビビる」を結成。コンビ解散後はビビる大木として活動を始める。現在はお笑いタレントのほか、司会業など、テレビやラジオのレギュラー番組に多数出演するマルチタレントとして幅広く活躍。また、J:COM「埼玉の逆襲」にレギュラーとして出演中。

すぐに帰ることができる
身近なふるさと

ビビる大木

Bibiru Doki



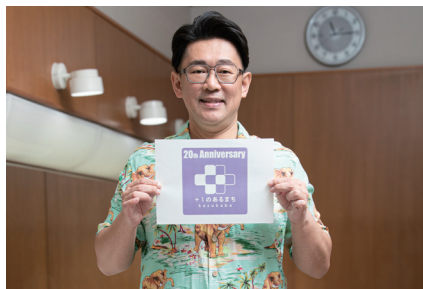
少年野球に夢中になっていたころの写真。そのころのユニフォームを身に付けて、記念写真を撮っていた

いんですね」

そんなビビる大木さんの小さいころの思い出を聞いてみると、
「小学生の時は、書道、そろばん塾と通いましたが、そろばんは自分の限界をすぐ感じました。でも親の要望でもあった書道を6年間続けたおかげで、クイズ番組で解答を書く時に、丁寧なきれいな字を書けるから、習っておいでよかったです！」

ちょっと切ないバレー部のレギュラー入りもよき思い出

中学校は、2019年に閉校になった谷原中学校に通っていたそう。
「小学生の時は少年野球をやっていましたが、二軍で特に活躍もせず、中学校時代はバレー部に所属して、朝練して土日も練習して、2年生でとうとうレギュラーになりました。でもその選考方法が背の高い順に6人がレギュラーって言われて。あんなだけ練習したのに、意味があったのかと思いました(笑)」



2010年、1期目のかすかべ親善大使に任命。当時の市長さんにテレビやラジオで春日部ネタをスキマに差し込んでくれて言われて、少し困りましたね(笑)」



芸人になってからも特に引越すタイミングがなくて春日部に住んでいたという大木さん。
「先輩芸人に突然呼ばれても春日部だから行って行けなくて。僕はお酒を飲まないというのがあるけど、付き合いがちょっと難しかったのはありました。でも、フジテレビ系の『笑う犬の冒険』ではつば隊が始まった時によくやく都内に引っ越しました。その前は春日部の自宅までタクシーで帰らせてくれたけど、あそこまで帰るとタクシー代が2万円とかするからプロデューサーが『高いっ。どこまで帰っているんだ』ってすごく驚いていたのを覚えていますね」

かすかべ親善大使、

『埼玉県のうた』が映画のおかげで大ヒットに！

大ヒット映画「翔んで埼玉」で主題歌を歌うはなわさん。歌詞の中には「僕の故郷は佐賀県だけど実は生まれた場所は春日部」とある。
「2歳までしかないなかったから、ほぼ記憶がないのですが、佐賀県出身のイメージも強いですね(笑)」
主題歌になった『埼玉県のうた』は、2000年ごろに作った曲だった。
「『埼玉県のうた』が埼玉をテーマにした映画の主題歌になるかもって話は聞いていましたが、蓋を開けたらもうびっくり！こんな話題の映画だったとは。しかも依頼してくれた武内英樹監督は、誰かが許可なくYouTubeにあげていた『埼玉



歌詞には、埼玉県の名所や名産も登場し、埼玉愛にあふれる内容に。はなわさんが弾いていたベースもなんと埼玉県の形だ

大集合！！

内のキッズダンサーたちがはなわさんの演奏に華を添える映像に。

埼玉県のみんなが集結したミュージックビデオ

「一発撮りのノーカット。本番1回きりだね。みんなが俳優かっつぐらい完璧にやってくれて、こどもたちもニコニコで。埼玉のみんなが春日部に結集したこともうれしかったです」

そしてミュージックビデオを見た武内監督が気に入り、映画第2作「翔んで埼玉」のエンディングでも流れた。「僕の春日部でかなえない夢が3つあって、まずは春日部でライブをすること、それと『春日部のうた』を作ること、最後に春日部の公民館でみんなと一緒に歌うのが夢です」

春日部の中央公民館を舞台に真夏の暑い日に撮影

「その新曲のロケ地をどこにするか、スタッフから相談があった時になぜか浮かんできたのが、春日部でした。そうしたら中央公民館（粕壁市民センター）を選んでくれたので、そこで撮影しましたね」

撮影は、夏の暑い時に行われ、粕壁小学校の児童が描いた花の絵を背景に、県内60自治体職員が特産品をアピール、ゆるキャラも登場して県

「春日部のうた」を
いつか作ってみたいね

はなわ

Hanawa

Profile

春日部市で生まれた後は、千葉県我孫子市、その後に佐賀県佐賀市へ移住。お笑いタレント・シンガーソングライター。1stシングル「佐賀県」でオリコン初登場5位(売上枚数約25万枚)、2017年CD「お義父さん」を発売し、レコード大賞企画賞を受賞。同年ベストファーマー賞を受賞。2019年映画「翔んで埼玉」主題歌CD「埼玉県のうた」を発売。





④二人がボールを蹴り始めた保育園に通っていたころ。庭や公園では、いつもボールと一緒にだった

**今でも続く仲間との交流
春日部での恵まれた好環境**

勇人「しかもクラブが自前のグラウンドを持っていて、あの当時では珍しかったナイター設備もあったので夜もトレーニングができました」

寿人「サッカーに打ち込むには、かなり恵まれた環境でしたね。監督も熱心に指導してくださる方で、あの当時でヨーロッパの試合などをビデオにとって見せてくれたり、最先端のサッカーに触れさせてくれました。この時に、いろんなレベルやタイプの子と一緒にプレーし、力を合わせてゴールを決めて、ゴールを守る。仲間を思う気持ちを、この幼少期に学ばせてもらったのはすごくいい経験になったと思います」

その後、寿人さんが現ジェフユナイテッド市原・千葉のジュニアユースに入団することになり、一家そろっ



⑤「兄と色濃く春日部で過ごせた時間が、選手としての礎になった」と寿人さん

**公園やイベントなど
思い出の場所がいっぱい！**

勇人「小学生のころは、サッカーの試合やスライダーや流れるプールがあった大沼運動公園によく通っていたよね」

寿人「あの時、カップ麺ができる自動販売機が何台か並んでいて、よく友達と一緒に食べたよね」

勇人「あと春日部駅の近くにあったスポーツショップのB&Dにサッカー用品をよく見に行ったり、ロビンソンでは映画にも行ったりね」

寿人「僕は、イトーヨーカドーの屋上の遊園地にあった魚釣りができるところをよく覚えてるな」

勇人「それと『大鳳あけ祭り』は家族と一緒に見に行ったり、『春日部藤まつり』も毎年楽しみだった。一度、藤まつりでクイズ大会をやって、入賞したんだよね。でっかい犬



⑥プロサッカー選手になったのも原点である春日部市でサッカーを始めたからだと言っている二人。イベントも開催したいそう

僕らの原点は、
春日部にある

佐藤勇人

Yuto Sato

佐藤寿人

Hisato Sato

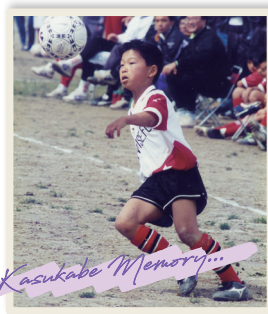


Profile

春日部市出身。双子の弟である寿人さんと春日部市の少年団チームでサッカーを始め、18歳で現ジェフユナイテッド市原・千葉とプロ契約。2度の優勝と日本代表としてもプレー。2019年にプロサッカー選手を引退し、その功績を称えられJリーグ功労賞を受賞。現在は、ジェフユナイテッド市原・千葉のアンバサダーやJリーグや海外サッカーの解説をしている。

Profile

春日部市出身。中学進学を機に、双子の兄である勇人さんとそろってジェフユナイテッド市原ジュニアユースに入団。2005年よりサンフレッチェ広島に所属し、2012年にJリーグMVP(最優秀選手)とJリーグ得点王を獲得。2013年にはJリーグ史上初の10年連続2桁得点を達成。2020年に現役引退後は、イベント・テレビ出演やサッカーの解説者として活躍。



⑦小学校1年から6年まで通ったサッカークラブ。試合に出場して活躍

の置物が賞品で、今でもよく覚えている」

勇人「よく家の前の団地でサッカーして大騒ぎしてたけど、近所の人たちは何も言わず優しく見守ってくれたんだなって今さらながら思う。通ってた立野小学校は、校庭が広くて自由に入れて思いっきり遊べたよね。そんな春日部の温かい地域の雰囲気の中で育ったことがよかった」

寿人「春日部の人たちは、みんながおおらかで、あの環境でのびのびサッカーができたからこそ、今のキャリアにつながっているんだと思う。春日部は二人にとっても原点の場所だからこれからも大切にしたいよ」

サッカー選手を目指して
練習した春日部の日々

佐藤勇人さんと寿人さんは双子の兄弟で、春日部市出身の元プロサッカー選手。2006年には、史上初の日本代表双子同時出場という快挙を成しとげた。そんな二人がサッカーを始めたきっかけとは、何だったのだろうか？

寿人「3歳ぐらいの時に、両親にサッカーボールを買ってもらったのがきっかけだったよね？」

勇人「僕は双子だったからボール一つで遊べるサッカーがいいだろうと考えたんだと思います。だから小さいころは寿人や父と一緒にボールを蹴っていた思い出が残ってますね」



⑧「僕かしくて、今でも住んでいた家のあった場所に行きます」と勇人さん

寿人「小学校に入ってから地元のスポーツ少年団『大増サンライズフットボールクラブ』に兄と一緒に入りました。その当時、春日部市では1、2を争うレベルの実力を持ったチームなのですが、すごくアットホームな雰囲気です。居心地がよくて、公式戦は、出場する選手が限られましたが、じょうずへた関係なく、どんなレベルの子でも一緒に練習して、練習試合なら全員がピッチに立つてプレーできたクラブでした」

市民が誰でも知っている
春日部市に流れる市の歌

春日部市の歌「心の空」を2015年に制作。当時の小中学生が書いた1604通の春日部のエピソードにすべて目を通したのだそう。「とても1曲で収まらない量で、制



「春日部夏まつり」には、家族やいとこと一緒にハッピー浴衣を着て参加していた

沿線の路上ライブ活動で
根強いファン層をつかむ

春日部市で生まれ、上沖小学校、大沼中学校を卒業したあえかさん。2021年には、春日部市民文化会館大ホールでオーケストラワンマンコンサートを開催し、大成功を収めたシンガーソングライターだ。「地元中心の路上ライブ活動では、東武伊勢崎線や野田線の沿線ほぼすべての駅で挑戦したことも(笑)」

作して10年がたちましたが、今も市役所の電話の保留音で流れたり、防災無線チャイムの曲として流れたり、何かのたびにタイミングよく耳に入ってきてうれしくなりますね」

春日部市の好きなところは地域に誇りを持っているところとか。「春日部市の皆さんの印象は、謙虚その謙虚さと誇りを併せ持つ市民性は、なかなか珍しいと思います。地元愛もとても深いですね」

市民おなじみのナンバー 春日部市の歌も制作！

あえか
Aeka



Profile

春日部市出身の鍵盤弾き語りシンガーソングライター。2003年から音楽の道を志し、2008～2013年には東武伊勢崎線や野田線の沿線で路上ライブを行い、ファンを獲得し、2013年にメジャーデビュー。2024年には、FM NACK5にてオリジナル曲「証明写真機」が月間ランキング1位に。音楽評論家の富澤一誠氏から絶賛される。

太田裕美

Hiromi Ota

今でも子どもが自由に遊べる
豊かな自然が残る街

「春日部市は東京からも近いのに、自然がたくさん残る場所。小学生のころ、友達と自転車で行くのが楽しかった。小学校で友達と、貝拾いにハマっていました。正式には確かカラス貝という貝だったと思いますが、地元で『カタツケ』と呼ばれていました。食べたりはせずに拾うだけでしたが、なぜか楽しくてしょっちゅう出かけていましたね。

今ではずいぶん交通の便もよくなりましたが、子どもが自由に遊べる豊かな自然と、田舎っぽいよさがいつまでも残っているといいですね」



初夏には家の近くで
ホタルの姿も

Profile

大学卒業後、テレビのキャスターなどを経て、2006年に気象予報士の資格を取得。NHK「ニュースウォッチ9」で気象キャスターを担当した。結婚後は民放でお天気キャスターなどとして活躍。地元の気象については、「春日部市はもともと災害が少ないですが、首都圏外郭放水路(P12)ができてからは洪水が減りました」とのこと。

子どもと帰省する際は
エンゼル・ドームに立ち寄ります

井田寛子

Hiroko Ida

「関東平野のど真ん中にある空が広くて四季折々の景色が楽しめます。幼少期、実家の周りが田んぼだらけだったので、初夏にはホタルも見られました。中学生の時、初めて友達と『春日部夏まつり』に行き、ドキドキしながら露店を回りましたね。

こどもと帰省する時は、エンゼル・ドームによく立ち寄ります。施設が充実していて、春は目の前の河川敷沿いの桜も見事。いつまでも災害のない、こどもが安心して過ごせる街であってほしいです」

生徒会長になって活躍！ 充実した高校生活

三遊亭楽生

Sanyutei Rakusho

生徒会や実行委員会の
活動に夢中になった日々

春日部市生まれの落語家である三遊亭楽生さん。生まれた病院では、「春日部夏まつり」のお囃子が聞こえてきたと母から聞いたそう。

「だから僕が生まれて初めて聞いた音は、夏まつりの音ですね」

3歳まで春日部市にいたが、その

後は引っ越しで隣の岩槻へ。しかし豊春幼稚園、春日部高校に通い、ずっと春日部市との縁は続いた。なかでも春日部高校時代は、楽生さんにとっては特別な日々だったそう。

「発想が人とはちよつと違っていて、いじられっ子の時もあったのですが、春日部高校に入學して先生や友達からおもしろい奴だと思ってもらえて、その勢いで生徒会長や文化祭実行委

落語家の春風亭一之輔さんは、なんと高校の同級生だったそう。「一之輔が再興した落語研究会に予算を組んだのも僕なんですよ！ 本人は否定しますが(笑)」

その当時よく行っていたのは、粕壁にある「あま太郎」。15個入り180円でたこ焼きが食べられたとか。

「今もたまに行きます。高校時代の仲間とは、今でも定期的に集まっていますね」



①地元の落語会も楽しみ②2024年にかすかべ親善大使に就任。「春日部の魅力を日本中…いや世界中に発信できたらと思います！」と今後の抱負を語ってくれた

Profile

春日部市出身。埼玉県立春日部高校を卒業後、1997年6代目三遊亭円楽(三遊亭楽太郎)に入門。2008年に真打昇進とともに「楽花生」から「楽生」と名を改める。東京・日本橋人形町にて独演会を開くほか、定期的に勉強会を国内外で開催。本格的な古典落語が得意。声量の豊かさでメリハリの利いた高座が特徴で、人気を呼んでいる。

委員会もやっていた。しかもうちの高校は自由な校風で、催しなどの企画も含め、生徒会のお金の予算組みまで任されていた。「春高エンカ」を1000人が参加できる規模にしたり、「ミス春高グランプリ」などのイベントを企画して文化祭では自分で業者に依頼して花火をあげたことも。学校に報告しなくて問題になりました(笑)」

人気の春風亭一之輔さんは
実は高校時代の同級生



①今では伝統行事である第一回「ミス春高グランプリ」は生徒会企画だった。楽生さんは、司会も同時に担当したそう

地元で開く落語会は、
今も身が引き締まる思い

2024年に、かすかべ親善大使に任命された楽生さん。

「実は春日部市の方には、前座のころから仕事をいただいたりしてとても感謝しています。二つ目になった時にちょうど春日部高校創立100周年のホールが創設され、このホールのこけら落としではうちの師匠(六代目円楽)に、また、私の二つ目の披露目では師匠と大師匠(五代目円楽)にもいらしていただきました。懐かしく今でも大切な思い出です」